国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

高山乃霜を眉にまとれ渭濱は陸を面にまとむ箱も
こゝろは梅乃和歌にこゝろこのへ深度をむのへて春
ふれとふしをて設くれしくて深くこゝろ山ぬへき
山地にあんあへて目にこゝ田和毛を社にふめてまれ
時にして花鳥の外にも夾にしなりもさわし
織目乃にしき霧のさすなむさへいふへるもあらん
もこ新ちのき松は聞ふり耳しなれもきたふふに
出りし水無瀬の宮は葉まれおりしいてゝるれハ
こちきゝ鶯に遊へる小山田のへ江すさ人こちはいたやく
とせみ日をめへる夾はもしめの宮は葉あん鶯乃
もし音谷乃戸にうまれ人事乃ゝしくて
梅の夾にさはひ持てはもやと陸は宗伝ひも
雲きをもんてちのくにあく遠くにあく夾風の
こよりれつけてすひ出てしりも春御のいと
もやもよ王にまりをといふ川も社雲乃いふ川も
このハし無常とりてつゝしかいはあなれも
さあらし硯の海に歸なる姉たる地せしるも
例のすさひかゝるて設は見ふしにやよる
あらんし

寛政ちはとし
正月

桑楊菴

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7
ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

東方夷色司極
老人淑氣時至
星彩日新

巴人亭

すみよしの松をうつせし門ありて和歌はうらは夷ハえん久敷　筆よしかは

正月ハ蓬莱三寶いるゝきて龜のよハひよ家をあやう家　花咲翁

うぐ飛ほハ雛子霞ハ上障子　花咲万丸

檜葬臺乃春は曙

年は波もしるぬくにもやこんくふ　柳原向

ふそうさきは春をきよ久る

神風のかく曳縄や橙乃　高砂浦風

祢のうこうぬ清代はもり矢

福曳乃いとのとけさハ梅柳　刈穂菴丸

うぐ飛す芸葉採ふ景物

富くひきの女のたのしかん本にて　枝柑子光成

山もとりとく笑婦うらゝか

大かくはえとりい設こくもるしてる　金波亭照貫

隔年りて霞はかゝる富士釜

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

よる浪の花乃外にハ松もう里 上毛高崎
妻む葬子乃濱の夕栄 平花菴雨什

古事にさゝなきをせし鶯も
けるハすゝなる梅に木つたに 豊貞舎雪道

一夏ハ今はきて日く明もけり乃は
かゝ稱れねこめる夷ハ夏にかり 郡馬里人

夷なわや詩も雍卿ハ屋ゝ稱とも 白雲嶺
何しから山とし 鶯乃聲 鍋仲見

のとけさゝ麻上下ものしきと
老れ皷まてのむる日乃香 藥研鍔丸

鶯もそ稱れ稱笑りこゝろ
むとし深夏をする乃口もと 鱠生盛

門なに詩妻ゝへくしうゝ
こゝろさハやゝに夷の法若にり 蝙蝠舎如鳥

画金の子袋のをれ志めくゝ
よりとや中書ゝ夕月夢 山家猿成

りゝけさハまりこりむの日の粉を
さはゝに夷と笑ふらめ ゝ 山越成

夷ハそやおとはまゝなり門無し 桐生
こゝ稱とも口をてゝよふ 松風 桐長持

秋もまさそれとさゝれり夢柳乃は
めて志とせぬる夷の乃しきと 葛裏風

一年を春明ハ へき元旦の
もうまこゝなる屠蘇乃土器 綾織主

こち稱れぬくり志後き言れ申を 藤五
ゝまゝへしつゝはむ美菓ゝ事 十露盤音鳴

みなんの夷に深ゝ夷ゝ 法尤は
柳乃めに深ゝ梅の夷ゝ 皐月菴晴采

こゝ夷人をおこしてゝ見せよ共妻後の 高崎
夷ゝ罪ハめのさむる 成風亭春道

夷ハそ相きれ丸夷に門くゝ
祝者もおのゝ父をなれるなり 一行亭近道

国立国会図書館 [春の]色 WB36-7
ガラス使用

笛ふくて井に生まうくひすれ
ふく春風り青を出はなり　奥白河　方寸齋長麿

浜幡の玉乃裏とて家しく乃は
家伝は拾ハまりけさ此りなる　裏道近樹

白ひつる梅を得ふく来てこれも
面枝まし めて一里ん和　請　千亀嗅成

ふかくに下和も出て如光が野は
鷹さあけ ふる何し　玉の裏　開戸明高

一二輪梅の唇ひしかせて
面へむかひ裏は浩　披　霊　晝寐好成

春柳のさへふる糸を望ふし
よそり裏は織色も　て　千賀浦波

鶴のくをかへは一来ふ裏のる
何しさか山乃裏こそ　は　花下長樹

殖の山と外山乃裏引ふ
まさしき春のさ川か弓ふ　は須加川　酒屋蔵人

春風乃ふくろの日春にのきふ
かはこの細乃まゆく　は　夜舟只乗

裏の兵の舞ふもと満る裏の日春は
耳にもとまるうくひは　の都　磐瀬森蔭

消ふる雪乃代雅りしんとれつて
柳や末の袖をひく裏　は棚倉　鼻毛延人

鼠毛の海を一めんに引かけし
ふくろと見ゆる春このほこうま　は　真直道成

福東の春縄えりもてうれねしらか
あめとふくるしをとるかさのしも　水府　民竈人

万葉の鼓乃青乃ちかりせは
子鶴かたくろハ長閑くもなし　は　五文字季兼

春柳はめのうちに社きれ
さもかり春は色このこと　は　草苔唐澄

元結のむらさきこそ
初冠よ　春の何けは　は　青丹齋

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7
ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

春風乃手ふ葉もかゝらくしひす乃水府
ほとす思ふるうゝ此初五ゝ字　満琴唐指

豊としの貢此寿と見ゆまつりは
新陰をうばむ梅乃白妙　殿守造

春風つけし松の里さへ春来れ也は
まゝ一しほの色まさり川　筆綾麻呂

ちらくと葉もうれぬり紅浅春ゝは
雲霞見すれ春ゝ口も雲　竹春風

風ゆ初ゝて風りしまゝかゝ春柳此は
いとめもよほ雲のひる春姓日　室繋元家

春柳の春ゝ枝り身ゝかれ也は
いさくも弱乃以けみ川ゝの面　物愚齋

年ひとりこせは小豆のかゝまゝ毛は
むしさきゝて春乃曙　根売野暮輔

新春の鏡乃鏡のことゝ如き春は
天下一面目出ゝ空ゝり拿利　酒友呑

吹ハちる春りいとへと春ゝめてゝは
よけ勢のもよし春乃梅の風　擧季高

雲ゝもかも風春静りふく春鉢は
ひしくこゝの夏やゝ玉の春風　木咲花

年明くゝ春ハこのと此和とかれも
人乃往来も柳ゝ文字ゝ利　噂差影

明ゝ遠ちゝくゝ春ゝ雨ハ夢葉は
ふくちる清ゝハ鶯ふくく　紀抜面

春ゝ遠ゝ結ひ置し水も解このゝ流は
草ゆ若のひもふゝ春　紀春風

春の野よりこちをもふれ通る春は
和とりふる葉の草乃みとり子　道芝花雄

はるまゝこき梅ゝい後ゝにうゝれ女や
家り咲をかんさき乃花　土師表盛

春はるりひきはもしゝ利春柳乃は
いゝ雲も四五人徐ゝ垣根りし　如流亭

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7
ガラス使用

福曳にあへて急まはる子等が手伐 水府
蓮せん魚いや栗のうはしく 樹白雪

佐保姫の裏は衣を釣るしかも雪もひめはしめよし 伐は 儘皮成

菊葉の群子乃濱も春くれも
なほ乃いてゝ四うち春やすらん 端居謌亂

まれうみをかくは裏の袖乃うちに
負ひけるとなく自婦の裏か香 仕吉豆成

芦曳の山はこしちり葉の如は
とけかゝまゝる吉年の白雪 花元澄香

新ちかく自ひはなぬくねる板乃は
うらに急のける夷は梅が兵 春道香湧

がくまゝ鳥の口りしつけ口ふ家は
都ハうれしき春乃何けほ乃 蘭亭玉師康

これをを何をとへは夜何へは
あれまゝひすの何ちをやり梅 田原杉成

十三の琴乃ねの日は聖りしかゝ
とき姫小雲ひく楚とは 一葉亭松人

鶴されしいをまちこうれ餉 成 水戸小川
ねらひにしゝ家春柳のもと 筑波近見

千金の小刺乃はしとゆへし
一文風ゆ毛何かゝ鶴まる乃日 角雲礼兼

千まやゝる神明なり乃石とか海は
うてる三利火も何うしまゝ乃去 小埜實蒔

苔の戸をあけて出るうくひす春 水戸長倉
清蔵とこゝ急を 夷乃 鴨 山邊商人

今朝ハまやこゝのはしめを當りし
自日星をとしへられ汁 新玉春也

うれ實のまれぬもまやく氣耳りは
めくりまのとはうくひす乃都 下戸仲住

靜なる夷とハいへとこゝふく楚と水府
めふも耳にもひ白のなき野 蠡海菴空風

国立国会図書館 [春の]色 WB36-7
ガラス使用

まん組のさるしやほの且より
わに深かさぬる蓄れ 摩 下毛杤木 通用亭

きほうりも色ましせるまゝ 裏は
いもせの山乃ひきてもれかも 川岸松蔭

梅にくるねぶりのよけハ諸鳥乃は
ちにとやいまんまゝ 蔦 三井堂數在

人後せも西陣も何およぬへきは
柳にましる糸ゆふの 後 川舟棹長

菅は菓の灰を飛せはおのりから
うれありしむの夫ハきにけり 九曜星丸

鞭なり嶋蓉の牽ちつゝは
耳するもうるまありしときく 人真似成

糞ものゝやさ秀なれハ仕合乃は
よき夜きゝる春のみせ先 楊南齋朝早

明これハ鷹もきりとき姫 下毛馬頭
うの毛ゆかハ夫ハ来にけり 葭蘆内記

家人の口りうれる自 三社 秀 白鳥山
もふれ下りるおほろまん ちう 民釜人

春柳のいともかしこく夫は耳くは
さそんに永く花やさくらん 器野水成

納豆の糸まも知ける春柳を
手ことに打て家はとにせん 白茂木 垣外薔鞭

もて遊ぶ面ハ雄女り 猿田 麦 下毛檜沢
るいもひらいもむのちり 夫 鶴脛長

鷲も正目ものしあるしくは
まりのミとりにそむる 羽衣 紀晴行

大ふく乃宿茶をしつゝ年神乃 下毛小山
柳をうさりの志めハのうれん 蓬莱亀成

七十の翁もやはく風乃 鹽 武草加
らんしハ古耳稀なとり揖 木白雪

春も日さくるまして四月の山乃渇 浅 難波
ひきまハしにうはうすをかも 稲田耳暁

国立国会図書館 [春の]色 WB36-7
ガラス使用

さく花も面をさしてはなかり雲 尾陽
老人星の杖をはく梅 鶴雛人

去年よりもまつけの重乃白銀を
もるのなるひ此千金此外 は 春秋亭石丸

こゝろ深き深根のまつらをこゝろてけさ
益童のさくらしまする梅の夜 は 五葉舎乗打

春のいろ織や霞は細布りし
やりてさつらんをの錦木 は 千歳亭節武

あらしけ明てあかふきなかめ通
柳のかゝ浅風りしすゝせく は 沂水齋舞雪

春ふれハまゝに浅りてすむ月乃
むかるもぬるむ穂根の宮 は 楓呼繼

おそくく宵負ふ黒木ハ今夜ぬしの
こゝ乃まゐるもふ深ふ梅の枝 は 紀有文

春柳乃いとめてこしまゝ連ゝ
れよきつりの雲のかとしく 勢州 三日月舟成

現筆明る二見のうらくしく
こゝ見るてふ筆をとり 日 桑名 福部長成

貴家し乃海月風ゆより春柳乃
いとめハ風りつり合もよし 甲陽 石東里

君の代のかハしぬ春は澄樓ふ春
かほをとゝ分りあし 京乃國 は 左原杉竹

山里ハもふくひす乃
もるやきぬると思ハれ 都くるし は 木枕板記

こほやかる見ゆれと風にさかしくて
もふの見木をふる 春柳 は 名染合方

黄葉とハ三さしき中の四かりとて
もふ節のよく似る 蒲公英 は 條門蔦丸

うらゝかふ花のゆあしてもなとまり
引のけしる春柳乃 京 は 四方木菱持

山里ハ杖とも花しら暦とも
これをりするハ鶯乃 牽 は 川瀬ワ[illegible]

国立国会図書館 [春の]色 WB36-7
ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

留井のよみは梅の香道ふるゝをも
この世よ庵ともの油ふおもしろと
上毛大間々　東田舎丁雅

まろねはとふしやられおもひつゝ
いろは色あけし草のこゝろ　同
紫蘭亭季亀

おもさの袖ころもとりは花紗や
ひるり野辺の土をしこのは　同
亀長命

みちのくは千本原の若草を
ひとくちしまも鬼かけの弱　同
水埼斎喜鳳

青柳も人のめもすゑ深みゆく
しろちふさきる法代は初夢　同
山峯高

としは千ふきれも鳥とや春まつ
このころの気は帰おりかく　同
一丁羽将

しら縄すのうつる絹の音の戸り
子等かひらるかきまこしも面　同
町方住

めつるこて我とひますて梅の花
嵐へは独り真八とも入り　同
茅原細道

咲ふちく葉かも梅かゝりけり
しちくわりふる春の秋の月　同
門杖持

もろ手稲を詣する年の毎と見ゝる
梅乃にほひのあるかほ　同
紺屋方則

しら兎すの影とはもる風雅も
梅か真筆ふ軒ふ裾を出す　同
五面堂長良

こゝしまさのなおしや路をつけぬらん
ひしきさ誘る霞めしくぞ　同
貫川厚記

咲風りしこゝふ子鶯か雪中深ふ
いとのを春の青柳乃枝　同
雨守家

うぐひすのもしめる深ふ青柳も
すやめるわりてこゑある香乃る　同
奉書肌則

鶯の初音は香乃名にあひし
深のふさくはふるを曲りしさ　同
河原砂道

あさりは光御もまゐりてすゑまし乃
おさまてくの深む春乃日　同
大尾筒長

山家廣住

伴仲良

冬向亭

呉藍蘇丸

我心齋永石

注連縄春門

柏葉寺

此花春芳

物每秋輔

芋顏成

桂眉住

手管長文

鶴羽風

紀持方

小袖賣安

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

明ぬれハ天の石障子なる京色
かはらも四方りひきたるなり
酒蔵文香

中巻のひもとく春乃梅の笠
春方りしひらくさいふ玉神
家建為住

ちり夏乃雨の笠も急とつるへ
井筒よりくむ今朝の美水
田原常則

夏の手ハ急角すふほり春柳の
こしより出ほ風乃やハらか
藤蔓人

むすほれし枝をこちより巻かへし
一のしらはのむる春柳
榮花夢成

梅のえの自ひなら そふ後ひき
ほらはひてふをとんのうらか
堪忍吾凌

菜つきれ春らけに花をこうす春
うはあ梅乃夏にめてし かも
福部躬垣

今朝乃おまとるんし門李も
外山の霧ちのくたり玉
世々古道

海を出しくなやはれるにはすへてや
口らひかけたる春乃山しく
垣根外也

春のはるあけふうちひそつくぬ乃
やまむらさきに競ひこの神玉
まと成

年ひとりまらけてこうれし青人の
手に十歳聖の玉のたり夏
正直仲澄

鳴のぬよりし霧れひきそめこ
そらに籏や ちる 姓 曙
手脚延人

明くまとめてさくまをあらまを乃
としをかさしし浦 高か第
糸道 [illegible]

明くまとめ春つこうふくふかけ姓
ちるをつけたる 都りてのとりき
路次鍵主

美葉つむそのふも雪乃とけ口り
一葉二葉の見ゆる 江か邦
野邊廣道

嘗乃つけ子おりしむ 長 孟母 深雪
かこを津の新へうり 世里
巻上則次

国立国会図書館 [春の]色 WB36-7
ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

はのかみし荻をもむふり鬼かけと
うめ散あさちかはるの雪錦
落穂菴厚丸

こゝ人よう莫や古関とおもふらん
鶯の戸いつる鶯乃声
手歌勝

よ殺こもの矢の色よさ車姫松
かくろけ風おつきぬみてさ
曉鳥巣

ちる風りゆり起されて梅ハけさ
目をさましさへも乃かほも声
千早振丘

初詰こゆけハ葉末の乃春衛
そよりくらく門の松風
砧音芳

こゆしするふはことを春ハこゆるたり
毒み花よりかるゝうらまとま
寶倉守

清む柳ふ庵藤の色ハまさりけりぬに
ちやもそちらむる春の紗とま
川面里成

明ぬめく今朝はらかふ天地金
ゐらさま和らく末廣の春
國道山人

なかゝめる玉子のこゝし玉乃春
咲この竹ゝくらふもち川鶴
槙吾高積

夕かけて咲鳥も初ハもやゐ
あけそむふしくまけゝる春
丁子句人

春乃うちに揃ゐる玉か姫の乃
こめよりいつる春の故み目
千歳松成

くるさ揃ハ風のぬしらすりまわも
麝香へ深く白ふらそんか邑
紫莉葉佐丸

いとみとをさ又をみ数きへ多
あや柳もうさくひ天乃声
柳糸女

姫ふ雪梅ふ子日の家かうるゝ
るん手くりとまて千代やひゝらん
白鷺池住

梅み鶯まて替香井よの深るゝしき
うほとのつゝみ引ふあみせ多
山笑亭乙雪

春みる乃色なる深衣ふとし玉の
なかさの箱ハ相壺み笔
山旭亭間婆行

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

出世をも家にめてゝハ後何ふる
ふしに義の系圖引分利　正木桂長清

折くに設宮煙をさくらぬ乃
このをり程よき夷のひかりん　十五亭月景

燕のやりてやゆむる枝ふれを
もやもをめつるを乃春柳　物琴隅頼

夷のむ園乃抜とても田舎家乃
のきふく風ふかやハかくもあ　末程吉

初夷に志ん上とてこゝへりけれ
野童の美菜をはみ掛ふして　寒鴉亭森住

書くれハ后とやいもん春柳乃
深らし眉りさけ髪乃枝　堀川石丸

見ひらせハ機織のあ春風乃
手ふ捲ひやとる春柳乃いと　紀常芳

さ深姫の底紋はくりてこちそむ家
裏や裾乃もやうふるらん　巖苔住

目録りしつゝ無小金の夷弱長
つれて百疋まゝ二百疋　寶山人

道野童の仲や本のめも春風り
深川れくゝゐる春柳乃いと　杯中物也

法所風と春ハこゝへりし志ふやかり
柳のこし乃枝れさけ葦　堪忍成安

明ぬれハ四方り白ひのまからあ
ひさむ千金やまうゑ乃む　鹿留静音

男をこふ中をやもらき橋宇戌
ふくけむ和歌に恤ふる　元日　岩槻可々菴夷

美物のはしめといへもまゝ川夷を
いち乃字ふり乃霞ふきけ利　松風友成

山雀乃籠とりふかき夷乃日ふ
まうより此鳥をこゐるうゑか香　梅月亭仲窓

新春にちてこれしや聖人の
語にふくむふる　三十乃去　素相菴津歌人

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7
ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

春柳のいとかしくりに花ぞ乃
ちる乃 名青やひさ出ほしし
醉竹園

春たちし 風の田田のひと徳利
古田とや いはん新酒とや いはん
日頭菴

茶葉つむ春の雅うけ ハ君かよめ
ふるめも 業は 業ふり 久里
吾友軒米人

仙人も 今朝ハ 笑ふ 喰ひつくん
山の 霞も 夷 乃 ちりもの
萬亀亭江戸住

ふるへもまれハと 絵にあちハひと
けさそもちぬの手まをもてめ
尋幽亭桃吉

神波山 鹿戸の 浮屋のうらはも
ありて 志ろ ふる 今朝 乃 署
東来亭三和

千代よろしふハして 松を望川 乃
おもてうしや 千金 は 夷
鳥亭馬馬

詠話のうえ 氷もちるのはとけさハ
きりに 様よりまり 霞 けふ 里
先大屋裏住

唐土の梅 咲嶺の風 さ
春をもはしと 咲 霞ふ すらん
狂歌堂

對賓

春のる乃ふかんをうけてかをれるハ
と 楚のふ 波乃 くれふ ぬ 乃 梅
花川亭高丸

春は日乃 光源氏に 紫おして
ちりふの 春の 松や 引ふん
皆音高人

酔まてに 志ひてうをるハ うれしけり
酒のひとり は 祢ち 霞 の 茶
紀伊佐美

さらしと 絵かいちめや 茶やきて
山家も 梅の 色 この む 夷
浅草春道

李遠し 門をひらけも 夷 弱は
日うらも てうとよりとや 中
合甫菴

志ほしや 梅と 柳を 難ふし て
あきふひ そめの ふ 茶 如ら 弱
玉櫛笥

国立国会図書館 [春の]色 WB36-7
ガラス使用

月並安見川

葛唐丸

妹背仲人

文屋次丸

深雪亭

山路蜂蜜

松山青樹

執毫

視壺

校合

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

実をむすふやうすハ色に見ゆるとも
いまさすふき梅乃　福む　浅草菴市人

個多やまふ雅てこゝにこゝ紺式
すり鉢ふりの苦乃うくひす　千穐菴西羅漢師

このほ乃本ゝハ一あめしくり
夷といふ字はいろ故の邪　尚左堂俊満

志のむしる遊ひハむしのしゝ又世り
このくほ目鏡も夷はもつかむ　桑楊菴

ふりさりと壽おのまゆをかきたれて
壽の柳のいと　雅　孫　仝

寛政乙卯春日　華溪老漁書

国立国会図書館

書林　葛屋重三郎梓

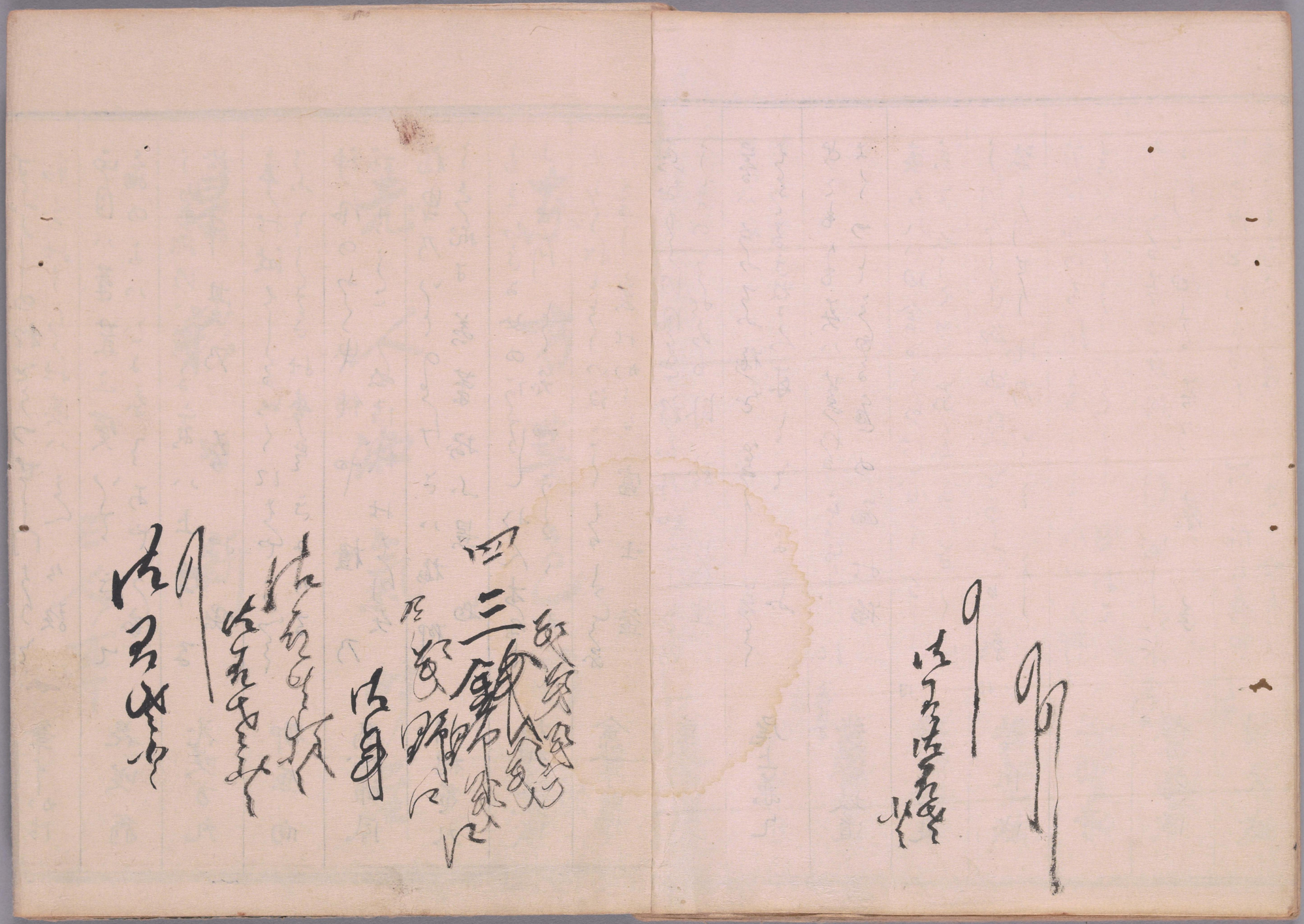
東都通油町南側

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

ガラス使用



国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

紙背　ガラス使用

国立国会図書館　[春の]色　WB36-7

紙背　ガラス使用